

WORLD THOROUGHBRED RANKINGS 2011

(The official listing of the world's best racehorses)

2011 年は英調教の 3 歳馬、フランケル【136】と豪調教のスプリンター、ブラックキャビア【132】の傑出した 2 頭に象徴される年であった。両馬とも未だ無敗で 2012 年も現役の予定である。両馬ともにさらなる飛躍が期待されるところだ。

World Thoroughbred Rankings Top 10 horses in 2011			
click here for complete rankings			
Rank	Horse	Rating	Trained
1	FRANKEL (GB)	136	GB
2	BLACK CAVIAR (AUS)	132	AUS
3	CIRRUS DES AIGLES (FR)	128	FR
3	DANEDREAM (GER)	128	GER
5	CANFORD CLIFFS (IRE)	127	GB
5	REWILDING (GB)	127	GB
7	DREAM AHEAD (USA)	126	GB
7	EXCELEBRATION (IRE)	126	GB
7	NATHANIEL (IRE)	126	GB
7	SO YOU THINK (NZ)	126	IRE

フランケル【136】は 2010 年には 126 ポンドの評価を得て、ヨーロッパ 2 歳チャンピオンの座に就いたが、2011 年は 5 戦無敗、その内 4 勝が G1 であった。

136 ポンドの評価は、サセックス S (G1) で古馬マイル部門トップ、キャンフォードクリフス【127】を 5 馬身差で降した時のものである。しかしながら、この馬のパフォーマンスで最も印象的だったのは、スタート直後からライバル達を圧倒し捻じ伏せた、英 2000 ギニー (G1) でのものだと言える。

同馬の評価は 2004 年のワールドサラブレッドランキング創設以降では 2009 年のシーザスターズに並ぶものであり、マイル部門に限ると国際クラシフィケーション時代のエルグランセニョール (1984 年に 138 ポンド) まで遡らなければならない。

ブラックキャビア【132】は2010年に古馬スプリント部門で123ポンドの評価を得てトップに立っていたが、2011年も無敗記録を更新し続けた。ニューマーケット H (G1)では、トップハンデを背負いながらも、軽ハンデのライバル達相手に3馬身差で快勝し、132ポンドの評価を得た。

2011年はG1 6勝、G2 2勝し、2004年のランキング創設以降では、2010年のソーユーシンク【126】を抜いて、豪調教馬のトップとなった。また、牝馬の比較となると、国際クラシフィケーション時代まで遡り、1980年代中盤に活躍した、1985年のペブルス【132】や1987・1988年のミエスク【132】と同等の評価となっている。

シンガポール調教馬**ロケットマン【125】**と豪調教馬**セボイ【123】**の活躍は、アジア・オセアニア地区におけるスプリント部門の層の厚さを証明した。

2009・2010年と121ポンドの評価を受けた**ロケットマン**は、ドバイゴールデンシャヒーン(G1)を制した勢いで、クリスフライヤーインターナショナルスプリント(G1)を制し、125ポンドの評価を得るとともに、ランキング史上、古馬スプリント部門で牡馬のトップとなった。

セボイ【123】は豪2歳チャンピオンで、3歳になってもさらに成長を続けている。3歳シーズン前半はG1 2勝を含む5勝を上げている。同馬の評価はマニカト S(G1)とコーフィールドスプリント(G2)を制した時のもので、3歳スプリント部門では、2003年の英調教馬**オアシスドリーム【125】**に次ぐ、高い評価となった。

日本調教の3歳馬**オルフェーヴル【123】**は、史上7頭目となる日本の3歳牡馬3冠を達成したのみならず、並み居る古馬勢を捻じ伏せ、有馬記念(G1)も制した。これは、**ディーピンパクト【124】**が3歳時には成しえなかった偉業である。このレースでは、ジャパンカップ優勝により、古馬牝馬長距離部門世界トップタイとなった**ブエナビスタ【120】**や、ドバイワールドカップ優勝馬**ヴィクトワールピサ【122】**を降している。また、3冠最後の菊花賞を制した同馬は、3歳ステイヤー部門では2008年の**コンデュイット【122】**と並んで122ポンドとなり、ランキング史上においてもトップの評価を得ている。

ヨーロッパ地区においては、古馬の中長距離部門のトップとなったのは**リユスデゼーグル【128】**である。2009年には117ポンド、2010年には118ポンドであった同馬は、数多く出走する中でさらに成績を伸ばし、10月には英チャンピオン S (G1)を制して、この評価となった。また、愛調教馬**ソーユーシンク【126】**は、このレースでは敗れたものの、年間通じて安定した活躍を見せ、豪調教馬時代の2010年と同等の評価を得た。

3歳牡馬中長距離部門トップとなったのは、英調教馬**ナサニエル【126】**でキングジョージ6世&クイーンエリザベス S(G1)を制した。

仏調教馬**アメリカイン【123】**は、メルボルン C 連覇は果たせなかったものの、ハンデを背負って4着となったことで、前年の121ポンドから123ポンドへと評

価が上がった。これにより、古馬ステイヤー部門ではトップとなり、ランキング史上では2006年の**ディーブインパクト**と並んだ。

独調教馬**デインドリーム【128】**は、ベルリン大賞(G1)とバーデン大賞(G1)を制した後、凱旋門賞(G1)を圧勝し、3歳牝馬部門のトップとなった。同馬の128ポンドは、2008年の**ザルカヴァ【128】**と並び、ランキング史上3歳牝馬トップタイの評価である。

また、ヨーロッパの牝馬部門では引退した**ゴルディコヴァ【124】**が今季はG1 2勝を上げている。同馬はジャックルマロワ賞(G1)では**イモータルヴァース【121】**の2着に敗れている。その**イモータルヴァース【121】**は3歳牝馬マイル部門で豪調教馬**アトランティックジュエル【121】**と並んでトップとなっている。

アトランティックジュエルは豪1000ギニー(G1)を制したのみならず、2000mのウェイクフルS(G2)を完勝した。これにより、同馬は3歳牝馬中距離部門のトップとなるとともに、豪調教3歳牝馬としては初めてここまでの評価を得た。

北米では、あまり目立つ活躍を見せる馬がいなかった。ブリーダーズカップクラシック(G1)を制した**ドロッセルマイヤー【124】**が古馬のトップである。G1 3勝を上げた**ハヴルデグレイス【120】**が、この競走では**ドロッセルマイヤー**の後塵を拝したものの、古馬牝馬のトップとなった。また3歳世代の中で一際成長が目立った**ケイレブズボッシー【122】**は、ブリーダーズカップダートマイル(G1)を完勝し、**アニマルキングダム【121】**や**シャックルフォード【121】**など、米クラシック競走優勝馬を抑え、同世代のトップとなった。また3歳牝馬部門では、ブリーダーズカップレディーズクラシック(G1)を制した**ロイヤルデルタ【119】**がトップとなった。